

ひきこもり対策に仮想空間

札幌市は、ひきこもりの人に気軽に交流や相談をしてもらおうと、インターネット上の仮想空間（メタバース）を活用した支援を20日から始める。市によると、メタバースによるひきこもりの人支援は道内自治体で初。自宅からパソコンを通じ、顔や名前を出さずに相談できる。関係者は「交流の場の敷居を低くし、仲間とつながる一歩に」と期待する。

札幌市29日から

委託先のNPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク（レタポス、札幌）が事業を担う。

4月下旬に試行し、当事者3人とレタポスからひきこもり経験者「レタスタッフ」6人が参加。机と椅子が並ぶ仮想空間のオフィスに、クマやリスなどの顔が描かれた参加者の分身（アバター）が集まり、文字による「チャット」や音声で交流した。40代男性は親の介護もあり「買い物でも外出しにくく困っていた。家族以外の人と話せてうれしい」と話した。

道や札幌市などによると、ひきこもりの人は札幌市内に約2万人、同市を除く道内で3万5千人と推計されている。札幌市は、当事者の居場所として相談もできる交流会「よりどころ」を月3回、オンライン会議Zoomで月1回開いている。

今回はZoomの代わり

顔や名前出さず気軽に交流



4月下旬のひきこもりの人支援の試行で活用したメタバースの画面

にメタバースを導入。心の健康相談などに応じる同市の「こころのセンター」とレタポスを中心に、タブレット端末の貸与でソフトバンク、メタバースを利用したアンケートの検証では北大大学院から協力を得て準備してきた。

市生活支援就労センター「ステップ」もメタバースの一員だが、当事者の意思を尊重した上で、交流の中で相談があった場合に対応する。

参加希望者はレタポスのホームページから申し込む。対象は原則、札幌市民。ただオンラインなので市外からも参加できる。レタポスの田中敦理事長は「心が疲れたら画面上の『休憩室』に移れる。当事者が主役なので安心して参加を」と話す。問い合わせはレタポス、電話090・38890・7048へ。（鈴木雅人）